筑波大学附属駒場中・高等学校

第４９回教育研究会のご案内

「知の共有　―共に学び、自由に探究する授業実践」

本校は 2002 年度から４期 19 年にわたり、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を文部科学省より受けて、先進的かつ革新的な科学教育を推進してまいりました。2022 年度からの第 5 期は 2 年間の経過措置校として採択され、過去 19 年にわたり実施してきた事業の課題を総括しながら、そこで得られた成果を教育研究の現場に還元し、さらには令和７年度以降の研究開発事業への取組み等について検討しております。これまで長年にわたり、御指導・ご協力をいただいた多くの皆様方に厚く御礼を申し上げます。

今年度の教育研究会では、「知の共有－共に学び、自由な探究をする授業実践」を主題として、第１校時に中学授業を、第２校時に高校授業を、それぞれに社会、理科、英語の教科を配し、公開いたします。中高ともに、生徒と生徒、生徒と教員とが生き生きとした対話をしていくことで、学びを深めていく授業となっております。自由な学びの空間をご覧いただき、教科別に実施する研究協議会で、お招きしている専門分野の助言者にご協力いただきながら、これからの学びについて参加者全員で議論を深めていただきます。

その後は、シンポジウム「筑駒流探究的実践のひとこま」を企画いたしました。講師には緩利誠氏（昭和女子大学）をお招きし、地域研究や水田学習、課題研究などを担当する本校教諭も加わってのパネルディスカッションを行います。中学における総合的な学習、そして高校における総合的な探究の時間で行われる学習は、生徒主導の探究活動を高い専門性を有する教員が支援するという、本校らしい取組みとなっております。今回のシンポジウムでは、ご参加される方々による様々な立場からのご意見をいただき、今後の探究的科学教育についての課題や展望などについての議論を深めていきたいと考えております。なお研究報告書や生徒が作成したポスターなどを控室に展示いたしますので、併せてご覧いただきご意見・ご助言を賜れますと幸甚です。

長きにわたったコロナ禍の出口がようやく見えてきたばかりではございますが、東京都内の警戒レベルが引き下げられたこともあり、今年度の教育研究会は対面のみでの開催とさせていただきました。日々ご多忙のこととは存じますが、多くの先生、教員志望の学生、関係者の方々にご来校いただき、種々のご助言・ご指導を賜りたく、ご案内申し上げます。

2022 年 10 月

筑波大学附属駒場中・高等学校

校長　　北村　豊

記

１．期日・場所

○　2022 年 11 月 19 日（土）

○　筑波大学附属駒場中・高等学校

〒154-0001　東京都世田谷区池尻４丁目７番１号　　電話　03-3411-8521（代表）
FAX　03-3411-8977
URL　https://www.komaba-s.tsukuba.ac.jp

２．研究主題

「知の共有　―共に学び、自由に探究する授業実践」

３．日程

8:30～9:30	9:30～10:20		10:40～11:30		12:40～14:40		15:00～16:30
受付	第１校時		第２校時		研究協議会		シンポジウム

〈１〉公開授業（9:30～11:30）

第１校時（9:30～10:20）

教科	題目と要旨	学年	授業者
社　会	**教科書から交流と戦争の歴史を学び、考える** ロシア・ウクライナ戦争がつづく現在、生徒たちは「戦争」をどう捉えているのだろうか。教科書叙述から生徒が何を読み取り、過去と現在を結びつけながら何を考えていくのか。その学びの過程の一端を参加者の皆さんと共有し、これからの歴史学習について議論をしていきたい。	中学２年	山田　耕太
理　科	**身近な利用から考える物質の性質** 普段はあまり気にも留めない身近な物質の性質。探究心を大切にしながら、中学１年生でも化学における知識を能動的に学べる工夫を、身近な利用や実験など具体的事象と結びつけて考えさせることで、実感を伴った理解につなげていく授業展開を皆様と共に検討していきたい。	中学１年	黒田　圭佑
英　語	**学校生活や行事について受信・発信する** 教科書ではアメリカの学校生活が紹介されている課を扱う。その他の国々の学校の様子についても情報を提供しながら、「筑駒での学校生活について英語で紹介する」というアウトプット活動の実施を念頭に置きつつ、授業を展開していきたい。	中学１年	須田　智之

第２校時（10:40～11:30）

教 科	題 目 と 要 旨	学 年	授 業 者
社　会	**まちづくりと交通** 地方において、人口減少が進んでいる。そうした中、コンパクトなまちづくりを進める富山市の例を通して、交通面から人口減少社会を支える公共交通の重要性を学ぶ。多様な人々の視点に立ち、都市再開発には様々な方法がありうることを考えることをねらいとする。	高校１年	関口　岳
理　科	**ウイルスを通して生態系を考える** 生態系とは、ある地域に生息する生命体の集団とそれを取り巻く環境を一体として捉えた概念であり、ウイルスもその一端を担っている。環境ウイルスを題材として扱うことにより生態系に対する理解を深め、一枚ポートフォリオ評価法を活用しながら、主体的に取り組む態度を評価していく。	高校１年	内山智枝子
英　語	**英語でグラフ** 様々なグラフを英語で効果的に表現するスキルは、高校での探究学習や将来の研究発表にも役立つものである。グラフ関連の語彙指導をしながら、生徒の思考力や分析力を授業に生かす方向を探りたい。	高校２年	秋元　佐恵

※感染拡大の状況によっては、教室への入場人数を制限し、一部の方には隣接した部屋で授業風景のサテライト視聴をお願いする場合があります。

★理科の第１校時は実験室で行うため、感染状況に関わらず安全上の観点から、一部の方に上記サテライト視聴をお願いする場合があります。

〈２〉研究協議会（12:40～14:40）

教 科	主 題 ・ 内 容	担 当 者
社 会	**Ⅰ「公開授業をめぐって」** **Ⅱ 大野新先生ミニ講演「課題研究とフィールドワークの接点」** 本校では、2016 年から高等学校 2 年時に、課題研究という科目を設定している。社会科ではそれ以前から SSH の事業として「科学者の社会的責任を考える現地実習（フィールドワーク）」として、水俣を訪れてきた。今回は、13 年目を迎えた水俣フィールドワークについて報告するとともに、課題研究やフィールドワークの意義や課題について考えていきたい。	授業者　山田　耕太 関口　岳 助言者 大野　新 （大東文化大学　文学部歴史文化学科　特任教授）
理 科	**Ⅰ「公開授業をめぐって」** **Ⅱ「科学的な探究活動の愉しみ方」** 「自然を愉しむ」これは教員と生徒のどちらにとっても、学びを進めるうえで重要なファクターである。本校理科教員による様々な探究的な取り組みを紹介し、その中で教員や生徒が「愉しい」と感じたことなども併せて報告する。さらに、助言者の貴重な実践報告や助言等も交えながら、教員と生徒ともに主体的に活動できるような「科学的な探究活動の愉しみ方」について、実践的な観点で議論する。	Ⅰ授業者　黒田　圭佑 内山　智枝子 Ⅱ発表者　今和泉　卓也 助言者 市石　博 （東京都立国分寺高等学校非常勤教員）
英 語	**Ⅰ「公開授業をめぐって」** **Ⅱ「生徒が主体的に発信し、相互理解を深める能力の育成」** 公開授業に関する検討に加え、生徒が自ら英語で発信し理解し合う能力を高めていくために、英語科各学年の日々の授業で取り組んでいることを報告し、より効果的な方策を協議したい。	Ⅰ授業者　須田　智之 秋元　佐恵 Ⅱ発表者　山田　忠弘 助言者 名畑目真吾 （筑波大学人間系(教育学域)助教）

〈３〉シンポジウム（15:00～16:30）

題　名　「筑駒流探究的実践のひとこま」

概　要

本校の探究的実践である総合学習の取り組みは、本校らしさがよくあらわれている活動の一つである。中学の総合的な学習の時間として、水田学習（中 1)、地域研究（中 1～中 3)、テーマ学習（中 3)、集中講座（中 3）が設定されており、高校でも水田学習（高 1)、地域研究（高 1～高 2)、理数探究基礎・総合的な探究（高 2）などがあり、それぞれの発達段階に合わせてより大きな学習テーマを、様々な角度から学び続ける。

水田学習や地域研究は、生徒の中から選出された委員が中心となって運営し、担当教員とともにつくり上げていく活動でもある。研究発表の場は他学年にもオープンにされ誰でも議論に参加することもできるし、研究報告書なども図書スペースで共有されているため、生徒なら誰でも閲覧できる。先輩から学ぶ機会は、生徒たち自身の主体性を生み出す根幹の一つともいえる。生徒同士が学年を越えて対話し、学びを深めていく営みが総合学習の枠組みの中に存在し、こうした中学からの積み重ねがより専門的な探究活動の基礎となっていることは間違いない。また、生徒主導の探究活動の土台を支えているのは、教員の各々の専門性とともに、これまで教員集団によって培われてきた豊かな蓄積によるところも大きい。

今回のシンポジウムでは、総合学習等での実践のひとこまを紹介することで、生徒たちの多様な資質・能力と向き合いながら共に学び合ってきた歩みを共有し、いま求められている、主体的・対話的で深い学びのあり方の一つを示したい。

パネリスト（本校教員）

渡邉隆昌（水田学習）山本智也（地域研究）今和泉卓也・吉崎健太（理数探究基礎・総合的な探究）

講　師

緩利　誠氏

（昭和女子大学全学共通教育センター准教授、昭和女子大学現代教育研究所副所長）

専門分野は教育学、カリキュラム研究。筑波大学大学院人間総合科学研究科学校教育学専攻を単位取得退学。現在の主な研究テーマは、中等教育におけるカリキュラム統合のあり方とその方法（具体的には教科等横断型探究学習カリキュラムのデザインやマネジメントなど)。筑波大学附属駒場中学校・高等学校のカリキュラムにも関心を寄せ、これまで多数の教育活動を観察・分析してきた経験を有し、本校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）運営指導委員も務めている。

※生徒が作成したポスターや報告書などの研究成果を控室に掲出します。

４．問い合わせ・申し込み

○参加資格　　参加は教育関係者に限らせていただきます。
○定員　　理科　40 名／社会科　40 名／英語科　60 名／シンポジウム　140 名（先着順）
○資料代　　１人当たり 1,000 円です。当日受付でお支払い下さい。
○参加申込　　本校 WEB サイト（下記）からお申し込み下さい。折り返し、受付完了メールが届きます。参加の可否につきましては、改めてメールをお送りいたします。受付完了メールが届かない場合は、下記のメールアドレスまでお問い合わせ下さい。
○問い合わせ先　本校研究部　e-mail アドレス：komaba.kenkyubu@un.tsukuba.ac.jp
○交通機関　　末尾の地図をご参照下さい。自動車での来校はご遠慮下さい。
○宿泊施設　　宿泊施設は、渋谷周辺の宿泊施設が便利です。各自でお申込み下さい。

―― 参加申込先 ――

本校 WEB サイト

URL　**https://www.komaba-s.tsukuba.ac.jp/seminar2022/**

申込期間　2022 年 10 月 18 日（火）～11 月 10 日（木）予定

定員に達し次第、申し込み受付は終了いたします。

スーパーサイエンスハイスクール（略称ＳＳＨ）について

文部科学省が平成 14（2002）年度から実施を開始した研究開発事業で、高等学校等を対象とし、理数系教育を重点的に実施することにより、その改善に資することを目的としています。2022 年（令和 4 年）度は全国で 217 校が SSH の指定を受けています。

具体的には、

① 学習指導要領によらない教育課程の編成により、理科、数学に重点を置いたカリキュラムの開発

② 大学や研究機関等と連携し、生徒が大学で授業を受講、大学の教員や研究者が学校で授業を行うなど関係機関等との連携方策の研究（高大連携）

③ 論理的思考力、創造性や独創性を一層高めるための指導方法の研究

④ 科学クラブ等の活動の充実

⑤ トップクラスの研究者や技術者等との交流、先端技術との出会い、全国の SSH 校との相互交流を目標としています。

本校では、H29 年度より R2 年度まで SSH 第 4 期、研究開発課題「国際社会に貢献する科学者・技術者の育成を目指した探究型学習システムの構築と教材開発」について、以下の 4 つを柱として、研究開発を実施してきました。今年度は SSH 第 4 期経過措置 2 年計画の第 1 年次として引き続き研究を推進しております。

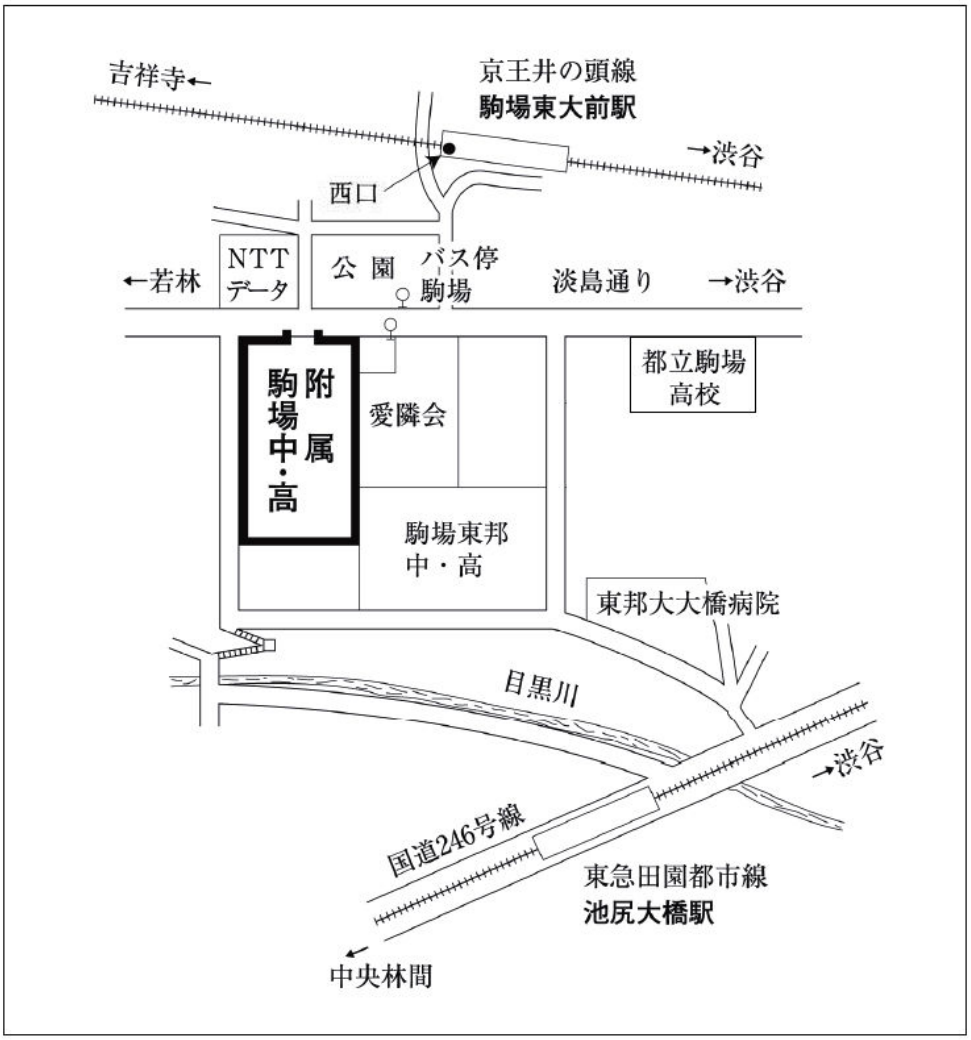
（1）国際社会に貢献する科学者・技術者を育成する探究型学習の教材開発と実践

（2）主体的な探究活動をするための基礎力育成カリキュラムの開発と実践

（3）探究型学習を実践するためのプログラム開発とサポート体制

（4）探究型学習システムの構築と他校への発信・共有

筑波大学附属駒場中・高等学校案内図



○利用交通機関

京王井の頭線「駒場東大前」駅西口下車徒歩 7 分

東急田園都市線「池尻大橋」駅北口下車徒歩 15 分

（渋 51）東急バス　（渋谷－若林折返所）

（渋 54）小田急バス（渋谷－経堂）　　いずれも「駒場」下車徒歩 1 分